

2008年1月1日以降に
川崎医科大学附属病院及び総合医療センター小児科において
マイコプラズマや肺炎クラミジア感染症を疑われ、
鼻咽頭または咽頭ぬぐい液を採取された方へ

—「日本全国における小児マイコプラズマ(*Mycoplasma pneumoniae*)、肺炎クラミジア(*Chlamydia pneumoniae*)感染症における疫学的検討」へのご協力のお願い—

本研究の内容は、研究に参加される方の権利を守るため、研究を実施することの適否について川崎医科大学・同附属病院倫理委員会にて審査され、既に審議を受け、承認を得ています。また、学長と病院長の許可を得ています。

研究責任者	川崎医科大学	小児科学	大石 智洋
研究分担者	川崎医科大学	小児科学	尾内 一信
	川崎医科大学	小児科学	中野 貴司
	川崎医科大学	小児科学	大野 直幹
	川崎医科大学	小児科学	宮田 一平
	川崎医科大学	小児科学	赤池 洋人
	川崎医科大学	小児科学	近藤 英輔
	川崎医科大学	小児科学	加藤 敦
	川崎医科大学	小児科学	河野 美奈
	川崎医科大学	小児科学	若林 尚子
	川崎医科大学	小児科学	井上 智貴

1. 研究の概要

マイコプラズマ、肺炎クラミジアは主に小児の肺炎の主な原因となるとされています。この肺炎はしつこい咳や発熱を主な症状として発病しますが、マクロライドといわれる薬を服用することで、比較的容易に治療できる病気です。しかし、2000年頃から、マイコプラズマにおいて、この特効薬であるマクロライド系の薬(クラリスロマイシン、アジスロマイシンなど)が効きにくいマイコプラズマ肺炎(耐性菌)が主に日本で報告されるようになってきました。

もし、これらの薬が効かなくなるとマイコプラズマ肺炎に効く薬を急いで開発しなくてはならなくなり、社会的にも大きな問題となるため、マイコプラズマの耐性菌の状況を調べるのが重要です。

しかし、マイコプラズマの耐性菌を調べることは難しく、また、肺炎クラミジアは、その診断自体が難しく、その状況が不明なため、研究施設にお願いして調べなければなりません。そこで、一般の診療所や病院の先生のところ、このような研究を始めることとなった次第です。以下の研究にご参加いただくとマイコプラズマと肺炎クラミジアをリアルタイムPCRという新しい方法で検査することで、その肺炎が本当にマイコプラズマやクラミジアであるか、また薬が効くものか効かないものかが分かります。

2. 研究の方法

1) 研究対象者

2008年1月1日以降に川崎医科大学附属病院および総合医療センター、共同研究機関でマイコプラズマや肺炎クラミジア感染症を疑われ、鼻咽頭または咽頭ぬぐい液を採取された方を受けられた方を研究対象とします。

2) 研究期間

2018年7月18日～2021年3月31日

3) 研究方法

患者様の、鼻(鼻咽頭)やのど(咽頭)をスワブ(綿棒)でこすることで検体を採取させていただきます。この検体を、川崎医科大学附属病院に送り、マイコプラズマや肺炎クラミジアについて調べます。

マイコプラズマが陽性であった場合に、薬剤感受性を調べます。

4) 使用する試料・情報の種類

試料:鼻咽頭または咽頭ぬぐい液及び分離した培養検体。PCR 反応液。

情報:年齢、性別、発熱期間、治療薬など

5) 外部への情報の提供

薬剤感受性結果を、検体を提供していただいた各医療機関に提供します。

6) 試料・情報の保存及び二次利用

この研究に使用した試料・情報は、研究の中止または論文等の発表から5年間、川崎医科大学小児科学教室内で保存させていただきます。電子情報の場合はパスワード等で制御されたコンピューターに保存し、その他の試料・情報は施錠可能な保管庫に保存します。

7) 研究計画書および個人情報の開示

あなたのご希望があれば、個人情報の保護や研究の独創性の確保に支障がない範囲内で、この研究計画の資料等を閲覧または入手することができますので、お申し出ください。

また、この研究における個人情報の開示は、あなたが希望される場合にのみ行います。あなたの同意により、ご家族等(父母(親権者)、配偶者、成人の子又は兄弟姉妹等、後見人、保佐人)を交えてお知らせすることもできます。内容についておわかりになりにくい点がありましたら、遠慮なく担当者にお尋ねください。

この研究は氏名、生年月日などのあなたを直ちに特定できるデータをわからない形にして、学会や論文で発表しますので、ご了解ください。

この研究にご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、あなたの試料・情報が研究に使用されることについて、あなたもしくは代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、2020年12月31日までに下記の連絡先までお申し出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者さんに不利益が生じることはありません。

<問い合わせ・連絡先>

川崎医科大学附属病院 小児科

氏名:大石智洋

電話:086-462-1111 内線 26515 (平日:9時00分～16時00分)

ファックス:086-464-1038

<研究組織>

研究代表機関名 川崎医科大学 小児科学

研究代表責任者 川崎医科大学 小児科学 大石 智洋

<既存試料・情報の提供のみを行う機関>

あさき小児科	浅木 秀樹
独立行政法人国立病院機構三重病院 小児科	浅田 和豊
佐賀県医療センター好生館 小児科	市丸 智浩
いなだ医院	稲田 俊雄
茶屋町こどもクリニック	井上 拓也
うめもとこどもクリニック	梅本 正和
大倉クリニック	大倉 完悦
福岡歯科大学総合医学講座小児科学分野	岡田 賢司
おかだ小児クリニック	岡田 隆滋
岡藤小児科医院	岡藤 輝夫
岡本医院	岡本 泰子
独立行政法人国立病院機構東佐賀病院 小児科	沖 眞一郎
川崎医科大学総合医療センター	田中孝明
落合小児科医院	落合 仁
小淵病院	小淵 聖子
かねはら小児科	金原 洋治
かねまつ小児科	兼松 洋
下関市立市民病院 小児科	河野 祥二
青葉こどもクリニック	倉光 誠
倉敷中央病院 小児科	綾 邦彦
くわのキッズクリニック	桑野 聡
こが小児科医院	古賀 龍夫
古賀小児科内科病院	古賀 達彦
こむら小児科	古村 速
旭川厚生病院 小児科	坂田 宏
塩月内科小児科医院	塩月 一英
しまだ小児科	島田 康
倉敷リバーサイド病院 小児科	杉田 真喜雄
杉村こどもクリニック	杉村 徹
たけだ小児科	武田 修明
水島中央病院 小児科	田中 勲

たなかファミリークリニック	田中 浩行
富田医院	富田 尚文
長井小児科医院	長井 健祐
まび記念病院 小児科	中尾 吉邦
児島中央病院 小児科	中島 英和
ながたこどもクリニック	永田 忠
江の浦医院	中村 貴美子
糸田町立緑ヶ丘病院	野村 和代
橋野こどもクリニック	橋野 かの子
平田内科小児科医院	平田 優子
全保小児科医院	平場 一美
藤沢こどもクリニック	藤澤 卓爾
羽島こども診療所	槇 明子
吉野こどもクリニック	松浦 稔展
倉敷成人病センター 小児科	御牧 信義
近畿大学医学部堺病院 小児科	森口 直彦
ももたろうクリニック	森 茂
やまぐち小児科	山口 洋一郎
やまだ小児科クリニック	山田 秀二
藤見医院	藤見 昭代
諫早総合病院 小児科	今村 善彦
山口大学医学部附属病院小児科	長谷川 俊史
にしむら小児科医院	西村 清子
大同病院 小児科	水野 美穂子
飯塚病院 小児科	岩元 二郎
大東市立こども診療所	山本 茂
くろさきこどもクリニック	黒崎 知道
聖隷浜松病院 小児科	松林 正
重井医学研究所附属病院 小児科	虫明亨祐
仙台市立病院 小児科	大浦 敏博
長谷川小児科医院	長谷川純男
広島市立舟入市民病院 小児科	松原 啓太

神戸市立医療センター中央市民病院	川崎 浩三
独立行政法人国立病院機構 福山医療センター 小児科	池田 政憲
子育て長田こどもクリニック	長田 郁夫
井上内科小児科医院	井上幸子
市立八幡浜総合病院 小児科	徳田桐子
おざきこどもクリニック	尾崎貴視
市川こどもクリニック	市川正孝
早川小児科クリニック	早川広史
鳥根県立中央病院	成相昭吉
つむらファミリークリニックくみ小児科	津村久美
みうら小児科クリニック	三浦裕一
国立病院機構福岡病院 小児科	二宮崇仁
岡空小児科医院	岡空輝夫
風の街こどもクリニック	山根達也
獨協医科大学越谷病院 小児科	松原知代
NTT 東日本札幌病院小児科	森俊彦
笠岡第一病院 内科	米山 浩英
倉敷第一病院 内科	中村 淳一
金田病院	原 宏紀
中浜医院	川西 正泰
筑波メディカルセンター病院 感染症内科	中浜 力
日高德洲会病院 小児科	鈴木広道
	井関憲一

3. 資金と利益相反

本研究は、平成28年度文部科学省科学研究費(課題名:肺炎マイコプラズマにおける抗菌薬に対する耐性菌の増殖様式と耐性機構の解明)および富士フイルム富山化学株式会社からの受託研究費、学内研究費を使用する。尚、本研究に関する利益相反の有無及び内容について、川崎医科大学利益相反委員会に申告し、適正に管理されています。